平成 28 年度研究成果中間報告書《平成 28 年度教育課程研究指定校事業》　　【新規】

都道府県・指定都市番号	２４	都道府県・指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	１　高等学校
				教科名	福祉
研究課題	**学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究**				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
学校名（生徒数）	三重県立伊賀白鳳高等学校　（生徒人数：８３１人）				
所在地（電話番号）	三重県伊賀市緑ヶ丘西町２２７０－１　（０５９５－２１－２１１０）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.igahakuho.ed.jp/				

研究のキーワード

観点別評価表　ＩＣＴの活用　介護技術の評価

研究結果のポイント

○　科目「こころとからだの理解」について

・　観点別評価基準の作成及び学習状況の把握の調査では，単元「こころとからだの基礎的理解」において実施した。「思考・判断・表現」，「技能」の学習到達度が低い結果となった。

・　ＩＣＴの活用方法について

パワーポイントや，iPad を積極的に活用したが，細心の注意が必要と感じた。

○　科目「生活支援技術」について

・　介護技術を評価するための観点別評価について

介護技術の観点別の評価シートを作成し，学習状況の把握の調査を行った。

・　ＩＣＴの活用方法について

iPad とウェアラブルカメラを活用し，介護技術を見直す公開授業を行った。

○　科目間連携をした介護技術の評価について

介護技術コンテストの評価表から介護技術の観点別評価を考察した。「こころとからだの理解」と「生活支援技術」の評価を，介護技術を通して評価することもできるのではないかとも感じている。

１　研究主題等

（１）研究主題

地域の福祉を担う人材として必要な知識と技術の向上を図るための教育内容及び教育方法の工夫改善

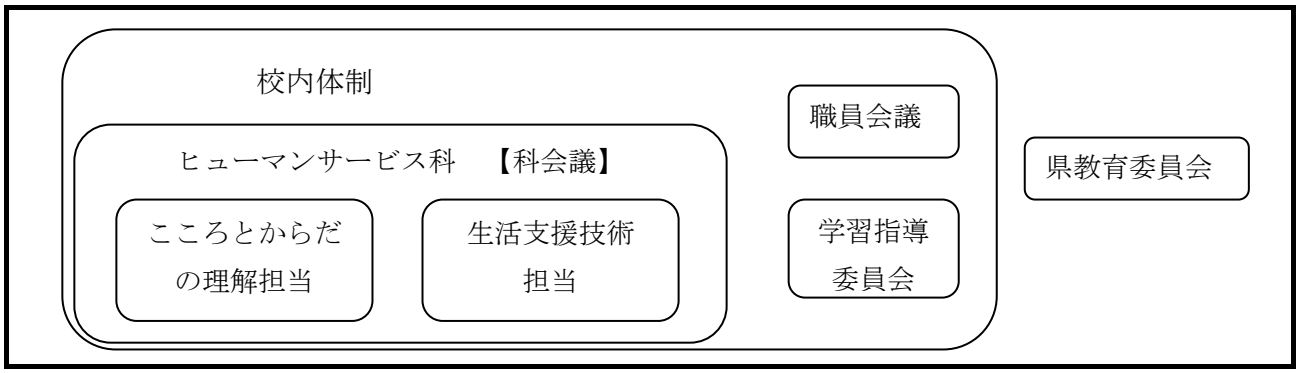
（２）研究主題設定の理由

本校が立地する伊賀市は，特別養護老人ホームが１１カ所，介護老人保健施設が４カ所，保育園が３６カ所あり，福祉人材育成の必要性が高い地域である。本校ヒューマンサービス科は，このような状況を鑑み，介護を深く学ぶ介護福祉コースと保育を含めた幅広い福祉を学ぶ生活福祉コースの２つのコースを設置している。介護福祉コースの生徒は，介護福祉士の資格取得を目指し，卒業後は介護福祉士として就職する生徒が大半である。

近年，介護福祉士養成課程では，領域「医療的ケア」が追加され，高度な知識と技能が求められて

いる。そこで,「こころとからだの理解」の指導方法・指導内容を検討し,「生活支援技術」や「介護実習」,「介護総合演習」との連携を含め,介護福祉士養成課程の教育内容及び教育方法の工夫改善を研究目的とする。

（3）研究体制



（4）１年間の主な取組

平成28年度	８月　全国福祉高等学校長会にて　資料交換
	９月　公開授業　「ＩＣＴを活用した生活支援技術」
	１０月　和歌山県立有田中央高校との意見交換
	１１月　大阪市立淀商業高校ＳＰＨ事業　見学
	１２月　函館大妻高等学校　授業見学
	１月　和歌山県立有田中央高校にて本年度の総括
	県内教員授業研究「こころとからだのしくみ」

２　研究内容及び具体的な研究活動

（1）研究内容

○　科目「こころとからだの理解」について

・　単元「こころとからだの基礎的理解」における観点別評価基準の作成及び教材の作成
・　単元「こころとからだの基礎的理解」における学習状況の把握の調査
・　ＩＣＴの活用方法についての検討

○　科目「生活支援技術」について

・　介護技術を評価するための観点別評価基準の作成
・　ＩＣＴの活用方法についての検討
・　ＩＣＴを活用した実技指導についての公開授業

○　科目間連携を意識した介護技術の評価について

・　介護後術コンテストの評価表から観点別評価を考察

（2）具体的な研究活動

○　科目「こころとからだの理解」について

・　観点別評価基準の作成

単元「こころとからだの基礎的理解」における評価基準を作成した。「関心・意欲・態度」を意識した教材を作成し,「知識・理解」の定着に結びつく授業を実施した。

・　学習状況の把握の調査

単元「こころとからだの基礎的理解」における学習状況の把握の調査を行った。

・　ＩＣＴの活用方法について

ＩＣＴの効果的な活用方法についての検討をした。

○　科目「生活支援技術」について

・　介護技術を評価するための観点別評価について

「移動の介護」についての観点別実技評価チェックリストを作成し，実技試験を実施し，学習状況の把握の調査を行った。

・　ＩＣＴの活用方法について

エビデンスに基づいた介護技術の実践ができる力を身に付けるための授業実践を行った。その際に，ＩＣＴを効果的に活用し，生徒自身の気づきを促す工夫を研究主題とした公開授業を実施した。

○　科目間連携をした介護技術の評価について

・　介護後術コンテストの評価表から観点別評価を考察した。

３　研究の結果と今後の取組

（1） 研究の結果

○　科目「こころとからだの理解」について

・　観点別評価基準の作成・学習状況の把握の調査

単元「こころとからだの基礎的理解」における評価基準を作成した。講義形式になりがちな科目であり，医学的用語などの耳慣れない単語が多いため，ＩＣＴ教材を活用した授業を実施し，授業への関心や意欲を高め，「知識・理解」の定着に結びつく授業展開を行った。全ての評価の観点において，関心，意欲を高める工夫を意識したあまり，「関心・意欲・態度」の観点でどのように評価すべきかを見失ってしまった結果となってしまった。学習の達成度としては，「思考・判断・表現」の評価の観点により，「健康」・「老化」といった状況を明確に「表現すること」が難しいことが分かった。また，グラフを読む「技能」の評価についても，学習状況の把握においてＣが付く生徒がいた。このことから，グラを読み取ることが苦手な生徒がいることが分かり，早い段階でグラフの読み取り方などの指導の必要性を感じた。

・　ＩＣＴの活用方法について

科目「こころとからだの理解」では，生徒は言葉だけではイメージが湧かないことも多いことからパワーポイントで図や表を多用した授業展開を行った。また，ネット上には単元「こころとからだの基礎理解」のこころのしくみに活用できる心理検査などの例も多く，実際に使用できるサイトも存在するので iPad を利用し，心理検査を実施できる環境を整えた。ネットの利用は手軽にできる点は良いが，そのサイトが本当に良いものなのか，また，心理検査などを生徒が行った結果，生徒自身にとってショックを受けることがないのかなど，運用上の注意点は多く，細心の注意が必要だと感じた。

○　科目「生活支援技術」について

・　介護技術を評価するための観点別評価及び学習状況の把握の調査

科目「生活支援技術」の中で，介護技術をどう評価するかについて研究を進め，観点別の評価シートを作成し，評価を行った。学習到達度の結果は，A11 人，Ｂ７人，Ｃ２人という結果であった。介護技術の習得については，ＩＣＴを活用するなど授業の工夫を行うことで，生徒にとってわかりやすい授業であった結果だと感じている。しかし，「こころとからだの理解」と連携した授業展開を実施するうえでは，実施学年や授業進度等の課題が浮き彫りになった。

・　ＩＣＴの活用方法について

エビデンスに基づいた介護技術の実践ができる力を身に付けるための授業実践公開授業を実施した。テーマを「ＩＣＴを効果的に活用し，生徒自身の気づきを促す工夫」とし，アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた。ＩＣＴ機器は iPad とウェアラブルカメラを活用し，「第三者からみた介護の様子」と「介護者の目線からみた介護の様子」を撮影し，比較しながら授業を展開した。また，クラスは１２人の少人数クラスであったため，教員はクラス全体で話し合いができるような工夫しながら進めた。授業後のアンケートでは，撮影した映像を電子黒板で写し，映像を止めることで，介護技術を確認できることや，そのポイントをマーカーでホワイトボードに書き込めることなどが，わかりやすいとのコメントをもらった。しかしクラス全体での話し合いに加え，１人で考える時間を設け，それをペア活動，グループ活動という発展していく手法を取り入れたらどうかという意見もいただいた。また，ＩＣＴは，機器トラブルもつきもので，トラブル時の対応能力の必要性も感じた。今後は，ＩＣＴのスムーズな運用を考えていきたい。

○　科目間連携をした介護技術の評価について

介護技術コンテストの評価表から介護技術の観点別評価を考察した。本校は校内において介護技術コンテストを実施しており，細かな評価項目と観点を踏まえた評価表の作成に取り組んだ。しかし，現行の４観点での作成が難しく，現時点では３観点の評価表となった。

介護技術コンテストは，福祉科で学んだことの集大成であり，学習成果の発表の場である。このことから，介護技術の評価表は，様々な科目を複合した要素を含んでいる。これを踏まえると「こころとからだの理解」と「生活支援技術」の評価を，介護技術を通して評価することもできるのではないかとも感じている。

（2）今後の取組

○　科目「こころとからだの理解」について

・　観点別評価基準
　単元「こころとからだの基礎的理解」の評価基準を見直し，学習達成度を測る
　別の単元において，評価基準を作成し，学習達成度を測る
・　ＩＣＴ教材を作成

○　科目「生活支援技術」

・　介護技術を評価するための観点別評価表を作成し，学習達成度を測る
・　ＩＣＴの活用方法について
　機器の活用方法について検討
　ＩＣＴ教材の作成

○　科目間を連携した評価について

・　「生活支援技術」における介護技術の評価について，単に「技能」として評価するのではなく，「知識・理解」や「思考・判断」などの評価項目が測れないかさらなる検討を進める。ただし，今年度，４観点での評価項目の試案では作成できなかったため，今後，さらなる研究が必要だと感じている。また，介護技術の評価が，「生活支援技術」の評価だけではなく，「こころとからだの理解」の評価もできないか検討したい。さらに、この評価表が，現在全国福祉高等学校長会で進められている「介護技術コンテスト」の評価へとつながればと考える。

発　表　日：平成29年2月10〔金〕
都道府県名：三重県
学　校　名：県立伊賀白鳳高等学校
校　　種：高等学校
教科科目名：福祉

資　料

三重県立伊賀白鳳高等学校

ヒューマンサービス科

教育課程研究指定校事業
教科『福祉』

三重県立伊賀白鳳高等学校

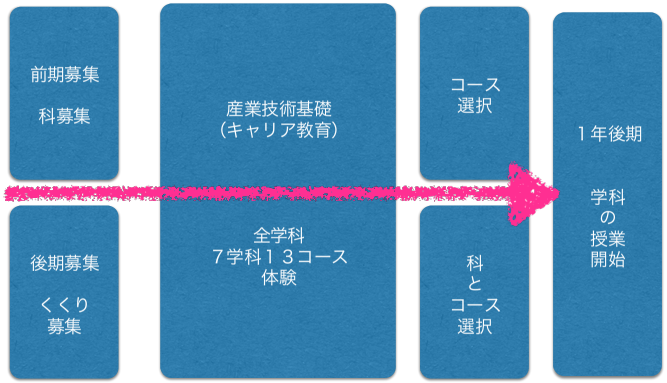
三重県立伊賀白鳳高等学校

伊賀白鳳高校

- 工業学科
  - 機械科
  - 電子機械科
  - 工芸デザイン科
- 農業学科
  - 生物資源科
  - フードシステム科
- 商業学科
  - 経営
- 福祉学科
  - ヒューマンサービス

機械工学	電気	ロボット	デザイン	インテリア	生産ビジネス	バイオサイエンス	フードサイエンス	パティシエ	ビジネス	マネジメント	生活福祉	介護福祉

入学後学科が決まるまで



研究主題

地域の福祉を担う人材として
必要な知識と技術の向上を図るための
教育内容及び教育方法の工夫改善

研究内容

- ○　科目「こころとからだの理解」について
  - ・　単元「こころとからだの基礎的理解」における観点別評価規準の作成及び教材の作成
  - ・　単元「こころとからだの基礎的理解」における学習状況の把握の調査
  - ・　ＩＣＴの活用方法についての検討
- ○　科目「生活支援技術」について
  - ・　介護技術を評価するための観点別評価規準の作成
  - ・　ＩＣＴの活用方法についての検討
  - ・　ＩＣＴを活用した実技指導についての公開授業
- ○　科目間連携を意識した介護技術の評価について
  - ・　介護後術コンテストの評価表から観点別評価を考察

具体的な活動について

○　科目「こころとからだの理解」について

・　観点別評価規準の作成

単元「こころとからだの基礎的理解」における評価規準を作成した。
「関心・意欲・態度」を意識した教材を作成し，「知識・理解」の定着に結びつく授業を実施した。

・　学習状況の把握の調査

単元「こころとからだの基礎的理解」における学習状況の把握の調査を行った。

・　ＩＣＴの活用方法について

ＩＣＴの効果的な活用方法についての検討をした。

こころとからだの理解

資料より

具体的な活動について

○　科目「生活支援技術」について

・　介護技術を評価するための観点別評価について

「移動の介護」についての観点別実技評価チェックリストを作成し，実技　試験を実施し，学習状況の把握の調査を行った。

・　ＩＣＴの活用方法について

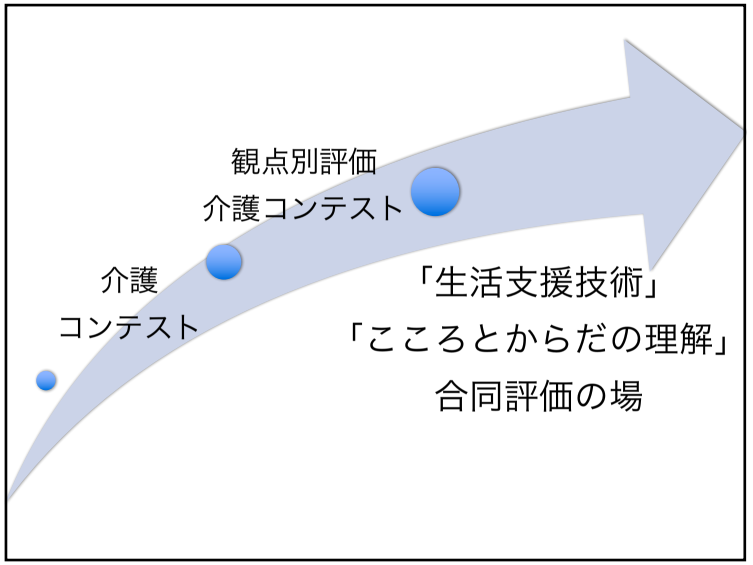
エビデンスに基づいた介護技術の実践ができる力を身に付けるための授業実践を行った。

その際に，ＩＣＴを効果的に活用し，生徒自身の気づきを促す工夫を研究主題とした公開授業を実施した。

生活支援技術

資料より

介護技術コンテスト



こころとからだの理解

単元名　(1)こころとからだの基礎的理解

第 1 章　こころのしくみの理解

第 2 章　からだのしくみの理解

(1)単元の目標

介護従事者として、健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現できるようになる。

人間の心とは何か、人間の欲求と尊厳を関連させながら考え、人間の心の動きやこころのしくみをについて理解する。

また、基本的なからだのしくみについて理解することで介護実践に適切に活用できる能力を身につける。

(2)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・健康や人間の基本的なこころとからだのしくみについて主体的に考え、関心を持って探究しようとしている。	・こころとからだの健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現している。 ・人間の基本的動作をからだのしくみと関連して考えている。	・こころとからだについてのグラフや表から変化を読み取り活用することで、介護実践に必要な技能を身につけている。	・健康についての概念を理解し、人間のこころとからだの基本的なしくみを、欲求や尊厳と関連させながら考え、理解している。

(3)指導と評価の計画(18時間)

次程	内容	時間
第一次	私たちの生活と健康	4時間
第二次	人間の欲求の基本的理解	2時間
第三次	自己概念と尊厳	1時間
第四次	意欲・動機づけのしくみ	1時間
第五次	思考・感情のしくみ	2 時間
第六次	記憶・学習のしくみ	4時間
第七次	適応のしくみ	4時間

次程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第一次（4時間）	私たちの生活と健康 【ねらい】介護従事者として健康をどのようにとらえるべきかを考え、表現できる。					
	・平均寿命の変化について考える。			①		・平均寿命の変化についてグラフや表から読み取り、記述している。
	・健康でいるために必要なことを考え発表する。		②			・健康でいるための心がけについて自らの生活を振り、具体的に挙げている。
	・健康について考え、広義の健康の概念について知る。		③			・WHOの健康の定義について知り、広義の健康の概念について考えている。
	・加齢と健康との関係について、老化の特徴とともに考え、グループワークに意欲的に取り組む。	④				・老化の特徴について意欲的にグループワークに参加している。
第二次（2時間）	人間の欲求の基本的理解 【ねらい】人間の欲求の種類とその内容を理解し、自己実現について考える。					
	・人間の基本的欲求について知る。		⑤			・欲求とはなにかを自らの経験から何か考えている。
	・人間の心の動きや心のしくみについて生活支援技術で必要な知識を身につける。				⑥	・基本的欲求と社会的欲求について理解し、欲求の構造を知っている。
第三次（1時間）	自己概念と尊厳 【ねらい】自分らしさについて考え、自己実現と生きがいについて知る。					
	・自己概念とそれに影響を与える要因について理解し、自己実現と尊厳、生きがいについて理解する。				⑦	・自己実現とは何か、自らの生活を照らし合わせて知っている。

社会福祉基礎　第４節疾病構造の変化と国民の健康づくり

第四次（1時間）	意欲・動機づけのしくみ 【ねらい】動機とは何か知り、動機づけを高める方法について理解する。					
	・欲求と意思を含め、人を行動に駆り立てる意欲と動機について理解する。				⑧	・動機づけについて事例を参考に考え、理解している。
第五次（2時間）	思考・感情のしくみ 【ねらい】思考・感情の基本的な概念を理解し、自分自身を知ることで他者理解につなげる。					
	・思考・感情の基本的概念を理解する。				⑨	・人格・気質・性格について理解している。
	・自分の思考や感情について理解することで他者理解につなげる。	⑩				・心理検査に興味を持ち、積極的に他者理解を深めている。
	・人間の基本的感情についてエクマンの 6 つの感情を例に考える。		⑪			・人間の基本的感情について自分のことと照らし合わせ考えている。
第六次（4時間）	記憶・学習のしくみ 【ねらい】記憶のしくみについて理解する。					
	・記憶のしくみについて脳の役割を理解する。				⑫	・記憶の過程とその内容について理解している。
	・知能とは何か理解し、グラフを読み取ることで加齢による変化の特徴を知る。			⑬		・知能とは何か理解し、加齢による変化について読み取っている。
第七次（4時間）	適応のしくみ 【ねらい】ストレスとその対処について知り、適応機制とは何か理解する。					
	・ストレスについて知り、対処方法を考える。	⑭				・ストレスの対処方法について自分自身のことと照らし合わせてワークシートに取り組んでいる。
	・適応機制の種類と内容について事例をもとに理解する。				⑮	・適応機制について実体験をもとに理解している。

観点別評価資料　参考資料

第１節　私たちの生活と健康

① 江戸時代の人の健康意識

「　　」…江戸時代中期の（　　）著書。

健康であるために心がけること、人生の楽しみ等

※年齢の推移について

時代	男女平均寿命
縄文時代	31歳
弥生時代	30歳
古墳時代	31歳
室町時代	33歳
江戸時代	45歳
明治24～31年	43歳
大正15～昭和5年	46歳
昭和10～11年	48歳
昭和22年	52歳
平成19年	82歳

●平均寿命の変化

【技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・グラフを読み取り、平均寿命の変化について記述されていれば「B」。	・平均寿命の変化について理由とともに記述されていない。 （指導の手立て） ・各時代がどういう時代だったか説明を加えた上で記述させる。
・各時代背景を読み取り、平均寿命の変化についてその理由まで記述されていれば「A」。	

② 現代人の健康意識

1928 年ラジオ体操に始まり日々の生活増進の広がり

●あなたが健康でいるために心がけていること

【思考・判断・表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・体とこころが健康でいることについて必要なことを考え、具体的に記述していれば「B」	・健康について具体的なことが記述されていない。 （指導の手立て） ・毎日の生活習慣から自らの生活を振り返らせて記述させる。
・「B」に加え、自分の意見を発表することができれば「A」	

③ 健康概念

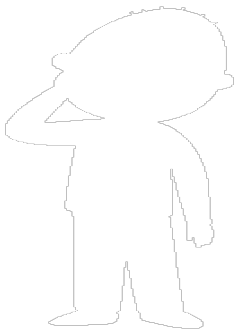
●健康とは

【思考・判断・表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・健康について考え、広義の健康の概念について記述していれば「B」	・広義の健康の概念について適切に記述されていない。 （指導の手立て） ・健康について多面的な視点で捉えるように促す。
・「B」に加えて、広義の健康の概念について理由も記述していれば「A」	

④ 加齢と健康

加齢…



{おじいさんのイラスト}

●老化の特徴

【関心・意欲・態度】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・加齢と健康との関係について、グループワークに参加し、自らの意見を表現できていれば「B」	・グループワークに参加せず、取り組みができていない。 （指導の手立て） ・具体例を挙げ、意見を持たせるとともに、グループワークに参加しやすいよう声をかける。
・「B」に加え、積極的に取り組みグループでの役割を担っていれば「A」	

⑤　人間の基本的欲求

●欲求

欲求とは…

【思考･判断･表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･自分の欲求について自らの経験から考え、記述できていれば「B」	･自分の持っている欲求について記述できていない。 （指導の手立て） ･具体的に提示して答えを導き出す。
･「B」に加えて、欲求の概念についても記述できていれば「A」	

⑥　人間の社会的欲求

基本的欲求…

社会的欲求…

●分類してみよう

＜基本的欲求＞　　＜社会的欲求＞

【思考･判断･表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･自分の欲求について照らし合わせ基本的欲求について分類ができていれば「B」	･基本的欲求と社会的欲求について分類ができていない。 （指導の手立て） ･具体例をひとつ挙げ、答えが導き出せるように促す。
･「B」に加えて、社会的欲求についても分類ができていれば「A」	

第 3 節　自己概念と尊厳

⑦ マズローの欲求段階説

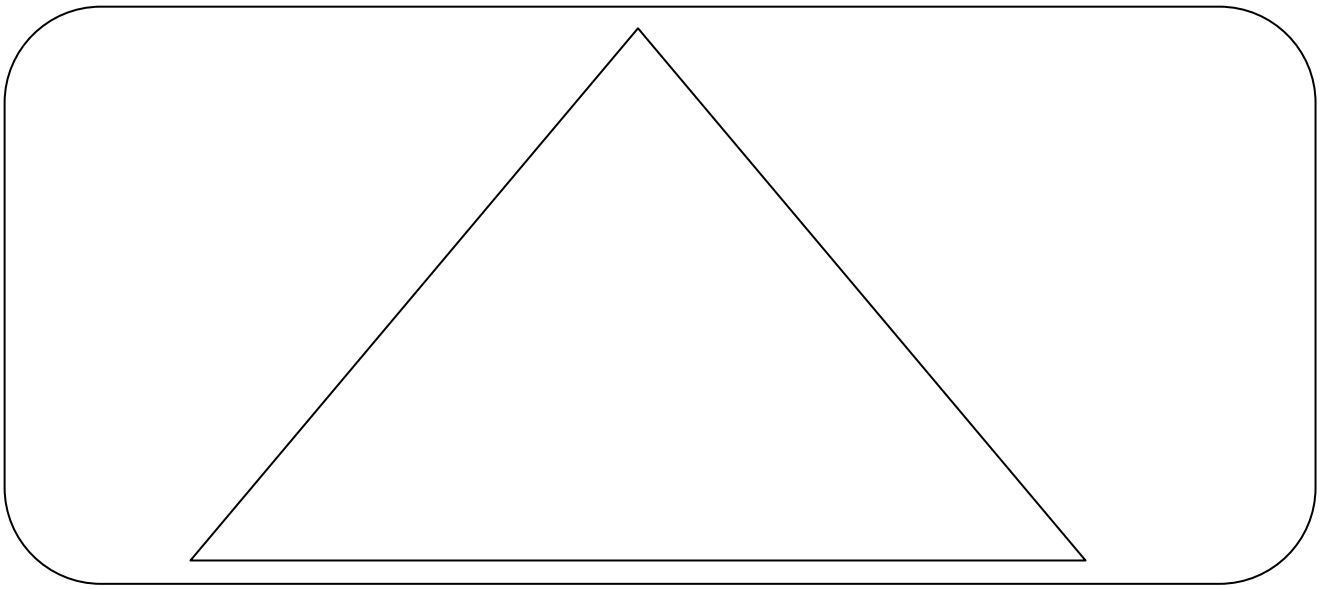
(　　)…

マズローの写真

1908 年 4 月 1日-1970 年 6 月 8 日

人間の自己実現を研究対象とする「人間性心理学」の最も重要な生みの親とされている。

「　　」を定義した。



●自己実現とは何か考えよう

【知識・理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・自己実現について記述できていれば「B」	・自己実現について理解しておらず記述できていない。
・「B」に加えて、自分自身のことと照らし合わせて考え、記述できていれば「A」	(指導の手立て) ・質問をし、発話から答えを導き出す。

第 4 節　意欲･動機づけのしくみ

⑧ 動機と動機づけ

(　　)…行動を起こし、目標に向かって維持･調整する一連の心理過程。

生命を維持し、種を保存させるために生得的な動機を(　　)という。

(　　)…生理的動機づけに基づいて、社会生活のなかで獲得されていく行動様式

○(　　):「　　」からの賞や罰で刺激を受けて向上する。例)

○(　　):「　　」(心の中)の満足を得るために自分から働きかける例)

○(　　):目標を立てて達成しようする動機。承認、励ましで高くなる。

●動機づけを高める方法について考えよう

【知識･理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･動機づけについて理解し、記述できていれば「B」	･取り組むことができない。
･自分のことと照らし合わせて具体的に記述ができていれば「A」	(指導の手立て) ･事例等を挙げて声をかけながら取り組みを促す。

第 5 節　思考･感情のしくみ

⑨ パーソナリティ

(　　)(　　)と訳される

ラテン語のペルソナが語源で芝居や劇で使われる仮面

(　　)の定義…

2　気質･性格

(　　)…生まれつき備わった遺伝的、体質的に規定された個人の情緒的反応。

(　　)…感情面、意志面をさし、人格よりは狭く、気質より広い概念。

一度、形成された人格の基本部分は、　　が原因で大きく変わらない。

【知識･理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･ワークに適切な答えが記述できていれば「B」	･ワークに適切な答えが記述できていない。
･「B」に加えて、パーソナリティ、気質･性格を図で表すことができていれば「A」	(指導の手立て) ･教科書に線を引かせて振り返った後で記述させる。

⑩ 心理検査

心理検査…性格検査と知能検査にわけられる。

●性格検査

質問紙法:与えられた質問紙に回答する検査法

•Y－Gテスト(矢田部•ギルフォード性格検査)

120 の質問に選択肢で答える。手軽に実施でき、多面的な診断が可能であるため広く用いられている。

•CMI健康調査票

213 の身体的な質問から後半は精神的な質問もある。4領域に結果に結果がでる。

•MMPI(ミネソタ多面人格検査目録)

被験者は各項目に対して、「あてはまる」「あてはまらない」「どちらともいえない」の3択で回答する。550項目からの自己式質問票で性格のプロフィールをみる方法。

投影検査法:あいまいな視覚的あるいは言語的刺激に対して連想•想像したものの中に、被験者の性格や深層心理が映し出されるという考えに基づいた検査法。

•ロールシャッハ•テスト

左右対象のインクのシミから連想するものを問う。

•バウムテスト

一本の木のなる木の絵からパーソナリティの発達的な側面などを検討する

•課題統覚検査(TAT)

抽象的な人物画や風景画を見せて自由に物語りを語ってもらう。

•文章完成テスト(SCT)

未完成の文章を自由に完成させてもらう

(例)

YG 検査やロールシャッハの写真

【思考•判断•表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
•全ての心理検査を行うことができたら「B」	•心理検査に取り組むことができなかった。
•「B」に加え、積極的に興味を持ち取り組むことができれば「A」	(指導の手立て) •興味を持つように声掛けをし促す。

⑪ 人間の基本的感情

エクマン…6つの感情「喜び」「恐れ」「驚き」「嫌悪」「悲しみ」「怒り」→**普遍的**なものである

※顔の表情は他者の感情状態や糸を知るてがかりである。

【技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
•表情の変化を読み取り、ワークに記入することができる。	•ワークに記入ができていない。 （指導の手立て）
•「B」に加え、全体に向けて発表することができる。	•実際に表情をしてみることで理解しやすいようにし、記述を促す。

第6節　記憶・学習のしくみ

⑫　記憶の過程

情報を入力する「　　」

↓

(　　)された情報を蓄え続ける「　　」

↓

保持された情報を検索して引き出す「　　」

記憶の保持間隔による分類

(　　):感覚を通して受容した情報。

(　　):1度に(　　)項ほどの情報を蓄える。1分以内に消える。　例)(　　)など

(　　):知識や経験のように学習したことの⑧のために使われるもの。長期の保存が可能である。

記憶の内容による分類

・(　　):(　　)など一般的な情報の記憶

・(　　):「昨日は何をしたか」など過去の出来事などストーリーに関する記憶

・(　　):身体的反応の記憶　　(例)(　　)

・映像的記憶と・音響的記憶

・(　　):日常の何気ない動作や行動などのように、無意識に繰り返されるパターン化された記憶

記憶の加齢変化‥‥(　　)や短期記憶が低下する。

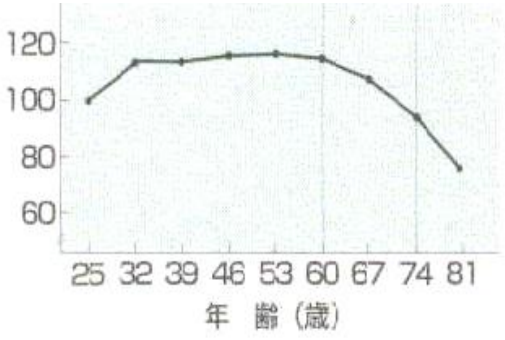
感覚の加齢変化‥‥視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚などが(　　)する。

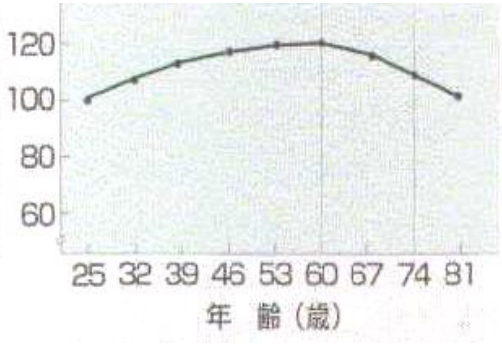
記憶の内容を言葉で表現できる記憶を(　　)という。また、言葉で表現できない記憶を(　　)という。

【知識・理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・適切な語句がおおむね記入されていれば「B」 ・適切な語句が全て記入されていれば「A」	・適切な語句が記入されていない。 (指導の手立て) ・学習プリントを見直すように促す。

⑬ 知能の定義





「　　」　「　　」

知能の加齢変化・・・

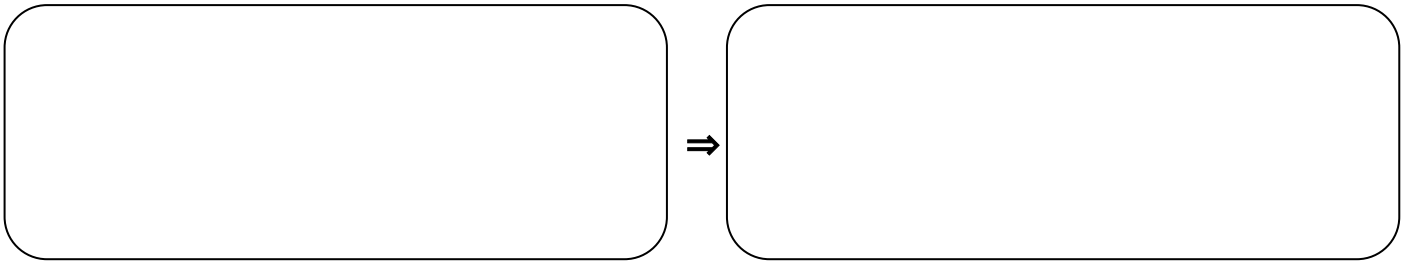
【技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・グラフを読み取り、知能の加齢変化について適切に記述できていれば「B」	・グラフを読み取ることができず、知能の加齢変化について記述できていない。 （指導の手立て） ・グラフの特徴について説明を加え、記述させる。
・「B」に加え、具体的な例も挙げていれば「A」	

第７節　適応のしくみ

⑭　適応とストレス

ストレスを引き起こすもの



【関心・意欲・態度】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・ストレスの原因とその対処方法について記述できていれば「B」	・原因とその対処方法についてどちらか片方のみ記述しているか、どちらも記述できていない。 （指導の手立て） ・具体例を挙げて記述できるように助言する。
・「B」に加えて、自分の記述を発表できれば「A」	

⑮ 適応機制

【　　】…

（　　）…

代表的な適応機制	
	不快な場面、緊張する場面から（　　）で消極的に自己の安定を求める
	例）
	より以前の発達段階に逆戻りして、（　　）をとる
	例）
	自分の欲求や衝動を（　　）ようにする
	例）
	欲しいものが得られない場合、（　　）で我慢する
	例）
	ある事柄に劣等感をもっている際、（　　）で優位に立って（　　）を補おうとする。
	例）
	自分の存在と価値を（　　）ため、（　　）をとる傾向をいう
	例）
	自分の行動や失敗を自分以外のところに原因があり、（　　）をつけて自分の立場を正当化する
	例）
	（　　）を、芸術、文化、スポーツなど（　　）に振り返る
	例）
	（　　）のある一面やいくつかの特性を自分の中に当てはめて、（　　）なること
	例）
	自分の中の認めがたい抑圧したい感情が（　　）みなすこと
	例）
	ある対象に向けられた欲求・感情を（　　）する
	例）
	知られたくいない欲求や感情と（　　）をとることによって、本当の自分に目を覆ったり隠そうとすること
	例）
	妨害になっていると思われている人や状況に（　　）を示す
	例）

【知識・技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・適切な語句が半分以上記入できていれば「B」	・適切な語句が半分以下しか記入されていない。
・「B」に加えて、適応機制の例について考え、記述ができていれば「A」	（指導の手立て） ・使用したプリントをもとに要点を再度説明し、記入を促す。

第一次

私たちの生活と健康 【ねらい】介護従事者として健康をどのようにとらえるべきかを考え、表現できる

①平均寿命の変化

•日本の歴史的な展開について知識が自分のものになっていないため、その当時の時代背景について生活状況を含めて丁寧に確認する必要があった。説明を重ねることで生徒もイメージしやすくなった。

②健康でいるためにこころがけていること

•ワークシートは意見を自由に記述できるよう身近な事例を取り上げ、自分のこととして捉えるように留意した。そのことで生徒の意見も出やすくなった。

③健康とは

•健康については、概念を多角的な視点から捉えるように促す必要があった。広義の健康については生徒自身の体験からも意見を引き出すことで自分自身のこととして考えることができた。

④老化の特徴

•加齢の程度には個人差があり、個人の生活習慣や健康管理にも関係があることを、ICT 機器を用いて知識の定着を促した。また、グループワーク等で言語活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢を養った。

＜第一次の内容全体の考察＞

•ICT 機器を用いることで視覚的にも理解しやすい授業展開が可能であった。

•こころとからだのしくみの導入であることから、自らの経験が知識と結びつくように工夫する必要があった。基本的なこころのしくみを理解した上で、からだのしくみや、具体的な介護場面における知識につなげるために、グループワークやワークシートを通して自ら考えを共有し、理解を深める姿勢を養った。

第二次

人間の欲求の基本的理解 【ねらい】人間の欲求の種類とその内容を理解し、自己実現について考える。

⑤欲求とは

•人間の基本的な欲求に関しては、身近な例として取り上げやすく、生徒が自らの経験から考えを深めることができた。

⑥人間の社会的欲求

•前回の授業を振り返り、ICT 機器を用いることで、欲求の種類やその構造、動機づけについて理解を深めた。

＜第二次の内容全体の考察＞

•生徒にとって身近なこととして取り上げる必要があった。

•動機づけや欲求に関しては、生徒にとって取り組みやすい内容であり、関心を持って意欲的な態度で取り組むことができた。

第三次

人間の欲求の基本的理解
【ねらい】人間の欲求の種類とその内容を理解し、自己実現について考える。

⑦マズローの欲求の五段階

•ICT 機器を活用してその構造について理解を深めることができた。

＜第三次内容全体の考察＞

•自分の生きがいとは何か考えることが他者理解につながるように意識して授業を展開した。授業の中にとどまらず、日常生活においても活用できるように留意した。自分自身の自己実現とは何かを考える機会に繋がった。

第四次

意欲•動機づけのしくみ
【ねらい】動機とは何か知り、動機づけを高める方法について理解する。

⑧動機づけのしくみ

•動機づけの構造について理解することで自己理解を促し、身近な例を取り上げて知識の定着を図った。具体的な事象からはイメージがしやすく自分のこととして捉えることができた。

＜第四次内容全体の考察＞

•学校生活における具体例を取り上げ、一人ひとりが自ら問題として捉えることができるように促した。

第五次

思考•感情のしくみ
【ねらい】思考•感情の基本的な概念を理解し、自分自身を知ることで他者理解につなげる。

⑨人格•気質•性格

•ICT 機器を活用して視覚的に理解を促した。図示することで全体像をつかむことができた。

⑩自分の思考や感情

•ipad のアプリを使用し、実際に全体の前で心理検査のデモを行った。生徒一人一人が意欲的な姿勢を見せ、取り組むことができた。実際の評価スケールとは異なるため、模擬であることを前提に生徒への理解を徹底させる必要があった。

⑪他者理解

•自分を理解した上で、他者への理解が深まるように、表情について詳しく考察することができた。

＜第五次内容全体の考察＞

•ICT 機器が幅広く活用されることで、教材に興味を持ち、主体的な授業展開が可能であった。生徒一人一人が意欲的に授業に参加しやすい教材で興味を持たせることができた。他者理解が深まるように継続した取り組みが必要である。

第六次

記憶・学習のしくみ
【ねらい】記憶のしくみについて理解する。

⑫記憶の過程

・短期記憶については数列の例を挙げ、実体験をもとに理解を深めることができた。授業に集中できない生徒にもスモールステップで取り組みやすい環境を整えた。

⑬知能について

・知能の加齢変化についてグラフを読み取ることでその特徴を知り、広い視野で捉え考えることができた。グラフの読み取りは数値化されたものに苦手意識を持つ生徒も多く、丁寧に読み解く必要があった。

＜第六次内容全体の考察＞

・結晶性知能と流動性知能については実習での体験や身近な高齢者との出会いと結びつけて考えることができた。
・今後はさらに具体的な事例や動画などを活用し、知識・理解の定着を図りたい。

第七次

適応のしくみ
【ねらい】ストレスとその対処について知り、適応機制とは何か理解する。

⑭ストレス

・自分自身がストレスに感じたこととその解消法について考え、グループで話し合うことで言語活動の充実を図った。全体での発表を通して、意見の共有をはかり、日常の生活にも生かせるよう、留意した。その結果生徒が主体的に取り組む様子が見られた。

⑮適応機制

・自分の経験と照らし合わせて考えるように留意し知識の定着をはかった。こころの動きについては自己理解につながる場面が多かった。

＜第七次内容全体の考察＞

・知識の振り返りと定着をはかった。ストレスについては身近な課題であるため、生徒は取り組みやすい様子であった。自己理解が対人援助につながるように促した。

番号	観点	A	B	C
①	技能	3 人	9 人	0 人
②	思考•判断•表現	3 人	8 人	1人
③	思考•判断•表現	3 人	9 人	0 人
④	関心•意欲	2 人	8 人	1人
⑤	思考•判断•表現	1人	11人	0 人
⑥	知識•理解	2人	10人	0人
⑦	知識•理解	2人	10人	0人
⑧	知識•理解	3人	9人	0人
⑨	知識•理解	0人	12人	0人
⑩	技能	2 人	8 人	1人
⑪	思考•判断•表現	2 人	10 人	0 人
⑫	知識•理解	0人	12人	0人
⑬	技能	2 人	8 人	1人
⑭	意欲•関心•態度	0人	12人	0人
⑮	知識•理解	0人	12人	0人

介護福祉コース　生活支援技術

介護に必要な姿勢と
その特徴を理解する。

2017/2/10

持ち物＆身だしなみチェック

①爪
②整髪
③持ち物
④手洗い
⑤挨拶（笑顔・愛想・愛嬌）

「笑顔」は、人の心を
ノックするぞ！

2017/2/10

姿勢とは・・・身体の構えのこと。体位といいます。
☆よい姿勢ってなんですか？

A. 身体の各バランスがとれ、各筋肉に必要以上の緊張をかけることなく、内臓の各機能が妨げられない状態のこと

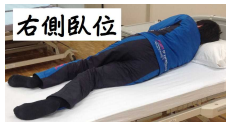
2017/2/10

仰臥位（ぎょうがい）

支持面積が多く、安定し、全身の緊張が最も少ない。
エネルギーの消耗も少なくリラックスしている。

2017/2/10

側臥位（そくがい）



背部、腰臀部に圧迫がない。腹筋、背筋に緊張がない。
身体の下側に重さが集中。※麻痺側は下にしてはいけない。

2017/2/10

腹臥位（ふくがい）

支持面積が多く、安定。股関節の拘縮が防げる。
※関節が固まること
胸が圧迫され呼吸がしづらいが、精神的な安心感がある。

2017/2/10

半座位（はんざい）・ファーラー位

半分座った姿勢。半身を約45度起こした姿勢。
上半身の重みが臀部にかかる。不安定で体位が崩れやすい。
※セミファーラー位・・・１５～３０度

2017/2/10

起座位（きざい）・長座位（ちょうざい）

上半身の重みがすべて臀部にかかる。臥位に比べて
視野が広くなる。臥位に比べて肺の容積が広がる

2017/2/10

端座位（たんざい）

ベッドに腰を掛けた姿勢。
上半身の重みが坐骨にかかり、
ベッド面で下半身を支える。
自力で座りバランスを保つ体位。
立位、歩行への基礎になる。
※①足底面をすべて床につける。
※②膝の内側の角度は90度以内。
※③深く腰掛ける
※④ベッドの端に手を置く
①～④が安定した端座位です。

2017/2/10

椅座位（いざい）

椅子、または車椅子にかけた姿勢。
上半身の重みが坐骨にかかる。
椅子の座面が下半身を支えている。
視野が広い。
動きやすい姿勢。

2017/2/10

2017/2/10

生活支援技術⑥　　生徒用　　組　　席　名前　　月　　日（　）

第４章　移動の介護

第１節　移動の意義と目的

1　自立生活を支える移動･移乗の介護

移動とは

移動の方法･･･

起き上がりや歩行が難しい→

長期臥床による弊害

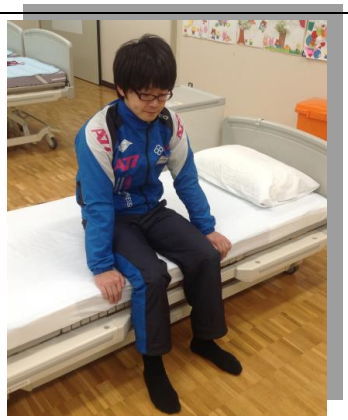
※同一体位による体重の圧迫でできる（　　）は一度できると治りにくく、まれに感染症から死にいたることもある褥瘡予防の観点からも体を動かす

褥瘡の発生しやすい部位

姿勢とは･･･

☆よい姿勢ってなんですか？

臥位		
（　　）が多く、安定し、全身の緊張が最も少ない。 （　　）の消耗も少なくリラックスしている。	背部、腰臀部に（　　）がない。 腹筋、背筋に緊張がない。 身体の（　　）に重さが集中。 ※（　　）側は下にしてはいけない。	指示面積が多く、（　　）。 股関節の（　　）が防げる。 ※関節が固まること 胸が圧迫され（　　）がしづらいが、 精神的な安心感がある。

座位	
半分座った姿勢。 半身を約（　　）度起こした姿勢。 上半身の重みが（　　）にかかる。 不安定で体位が（　　）やすい。	上半身の重みがすべて臀部にかかる。 臥位に比べて（　　）が広くなる。 臥位に比べて（　　）が広がる
	
ベッドに腰を掛けた姿勢。 上半身の重みが坐骨にかかり、ベッド面で 下半身を支える。 （　　）で座りバランスを保つ体位。 （　　）への基礎になる。	椅子、または車椅子にかけた姿勢。 上半身の重みが（　　）にかかる。 椅子の（　　）が下半身を支えている。 （　　）が広い。 動きやすい姿勢。

2　移動におけるアセスメント

筋肉の（　　）・（　　）・（　　）・（　　）、尖足などは移動能力を直接的に低下させる。

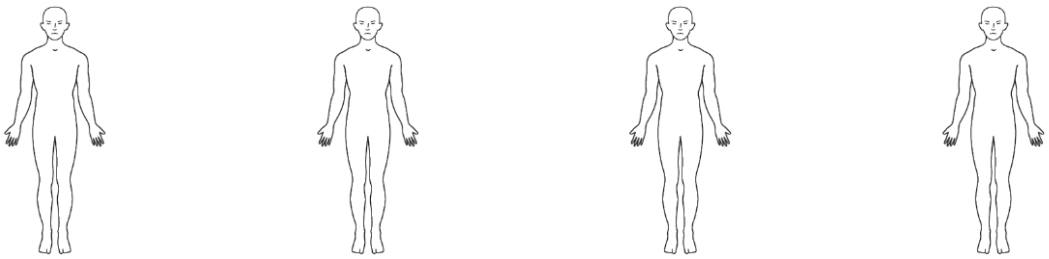
（　　）…

①

②

③

④



生活支援技術⑥　　教師用
第４章　移動の介護
第１節　移動の意義と目的

移動とはどのような動作の場合にも目的の場所へ行ったり目的を到達するために活用される
移動の方法･･･独立歩行、杖、歩行器、車いすなど

起き上がりや歩行が難しい→過度の長期臥床は廃用症候群（生活不活発病）が生じ心身の機能的低下を引き起こす

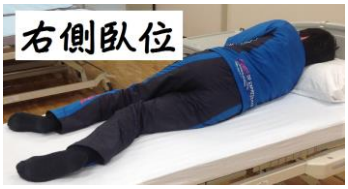
長期臥床による弊害
•骨粗鬆症
•便秘
•尿路感染症
•起立性低血圧
•筋委縮
•筋力低下

※同一体位による体重の圧迫でできる褥瘡は一度できると治りにくく、まれに感染症から死にいたることもある褥瘡予防の観点からも体を動かす

褥瘡の発生しやすい部位
•仙骨部
•
•
•
•
姿勢とは･･･
☆よい姿勢ってなんですか？

A. 身体の各バランスがとれ、各筋肉に必要以上の緊張をかけることなく、内臓の各機能が妨げられない状態のこと

それぞれの姿勢を学ぼう！

臥位（がい）		
仰臥位（ぎょうがい）	側臥位（そくがい）	腹臥位（ふくがい）
	 	

指示面積が多く、安定し、全身の緊張が最も少ない。 エネルギーの消耗も少なくリラックスしている。	背部、腰臀部に圧迫がない。 腹筋、背筋に緊張がない。 身体の下側に重さが集中。 ※麻痺側は下にしてはいけない。	指示面積が多く、安定。 股関節の拘縮が防げる。 ※関節が固まること 胸が圧迫され呼吸がしづらいが、精神的な安心感がある。

座位（ざい）

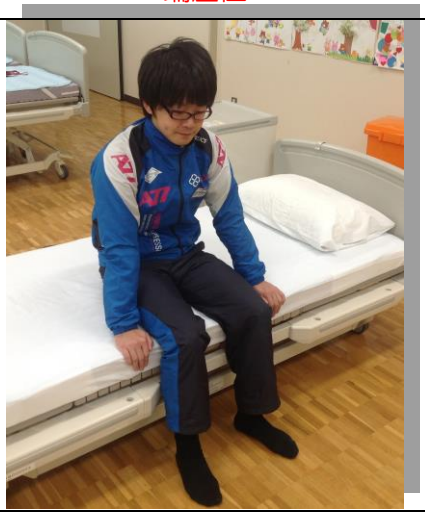
半座位（はんざい）・ファーラー位

半分座った姿勢。
半身を約45度起こした姿勢。
上半身の重みが臀部にかかる。
不安定で体位が崩れやすい。

起座位（きざい）・長座位（ちょうざい）

上半身の重みがすべて臀部にかかる。
臥位に比べて視野が広くなる。
臥位に比べて肺の容積が広がる

端座位（たんざい）



ベッドに腰を掛けた姿勢。
上半身の重みが坐骨にかかり、ベッド面で下半身を支える。
自力で座りバランスを保つ体位。
立位、歩行への基礎になる。
※足底を床につけて安定させること。

椅座位（いざい）

椅子、または車椅子にかけた姿勢。
上半身の重みが坐骨にかかる。
椅子の座面が下半身を支えている。
視野が広い。
動きやすい姿勢。

筋肉の委縮・麻痺・拘縮、尖足などは移動能力を直接的に低下させる。

運動麻痺･･･運動機能をすべて喪失した完全麻痺と少し動く不完全麻痺
①

②

③

④

介護福祉コース　生活支援技術

移動の方法を知る

持ち物＆身だしなみチェック

①爪
②整髪
③持ち物
④手洗い
⑤挨拶（笑顔・愛想・愛嬌）

頑張れってさ、
顔晴れってことよ。
つまり笑えってことさ。

続いて水平移動を。

上方移動の手順を
マスターしたら、
続いて横の移動
水平移動をマスターしよう！

①挨拶

目線を合わせ元気よく

②名乗り、体調を確認。

名乗り、体調を確認。

③説明と同意（インフォームドコンセント）

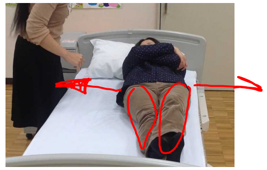
これから何をするか確認

×〜いいですか? ○〜よろしいですか?

④重心をまとめる（上半身）

「胸の前で腕を組んでください。」

⑤重心をまとめる（下半身）



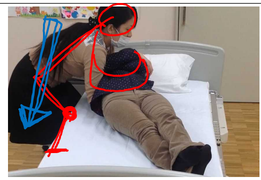
「右足で左足をすくってください。」

左足・右足

⑥頭部をささえ、肩を抱かえる

「頭失礼します。」
左手で頭部・肩、右手で腰部。

⑦上半身を移動



1・2の3で移動。
※てこの原理を活用　ベッドの高さ

⑧腰・足を支える

「腰、足失礼します。」
左手で頭部・肩、右手で腰部。
腰部　脚部

⑨下半身を移動

1・2の3で移動。
※てこの原理を活用

⑩楽な姿勢にしていただく

「腕と足楽にしてください。」

⑪体調確認して終了

「体調いかがですか」
「これで終わります。」

くじを引こう

①②	③④
⑤⑥	⑦⑧
⑨⑩	⑪⑫
⑬⑭	⑮⑯

手順をマスターしたら

①意識（考える・伝える）
②行動（やってみる）
③習慣（自然とできる）

です。

目標を振り返ろう！

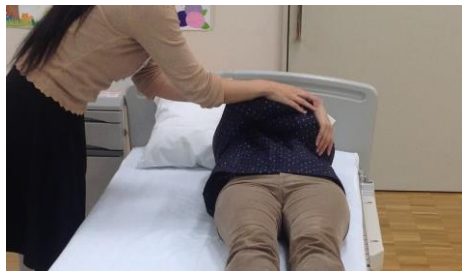
A,しっかり達成できた
B,達成できた
C,大体達成できた
D,あまり達成できていない
E,達成できていない
F,まったく達成できていない

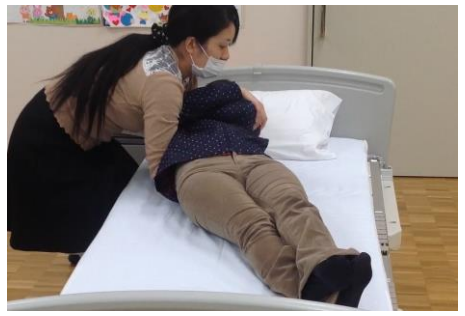
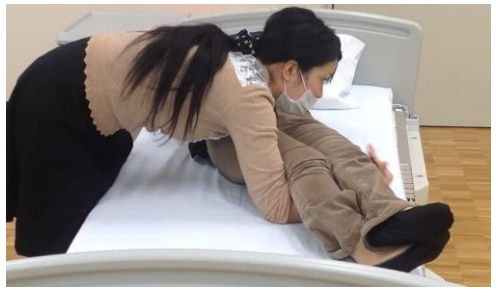
自己評価

水平移動をマスターしよう

プリントの内容は手順をまとめただけです。気づいたところはメモの習慣を！

水平移動とは・・・利用者さんを横方向への移動をお手伝いさせていただくこと

① 挨拶	② 名乗り・体調確認	③ 説明と同意（インフォームドコンセント）	④ 重心をまとめる（上半身）	⑤ 重心をまとめる（下半身）	⑥ 頭部をささえ、肩を抱かえる
					
目線を合わせ元気よく	名乗り、体調を確認。	これから何をするか確認	「胸の前で腕を組んでください。」	「右足で左足をすくってください。」	「頭失礼します。」 左手で頭部・肩、右手で腰部。

⑦ 上半身を移動	⑧ 腰・足を支える	⑨ 下半身を移動	⑩ 楽な姿勢にしていただく	⑪ 体調確認して終了
				
1・2の3で移動。 ※てこの原理を活用	「腰、足失礼します。」 左手で頭部・肩、右手で腰部。	1・2の3で移動。 ※てこの原理を活用	「腕と足楽にしてください。」	「体調いかがですか」 「これで終わります。」

気づいたこと・感想

介護福祉コース　生活支援技術

側臥位への体位変換
の方法を知ろう

持ち物＆身だしなみチェック

①爪
②整髪
③持ち物
④手洗い
⑤挨拶（笑顔・愛想・愛嬌）

昨日、出張で
和歌山県の有田中央高校に行きました。
「伊賀神戸→大阪へ。大阪→和歌山へ」
というルートで5時13分の
始発に乗っていってきました。

大阪からボックス席に座り、
電車に揺られながら
ウトウト・・・

目が覚めると・・・・・・・・・・・・・・

仰臥位から右側臥位へ

①挨拶・名乗り・体調確認
呼名はフルネーム
名乗りもフルネーム

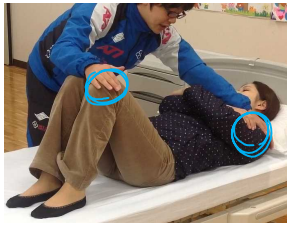
②説明と同意（インフォームドコンセント）
向く方向と逆方向に水平移動
※身体を中心に持っていくため
その後、体位変換（仰→側）

③水平移動（向きたい方向とは逆）
プリントNo16参照
終わったら反対側に回り込む←一言伝えよう

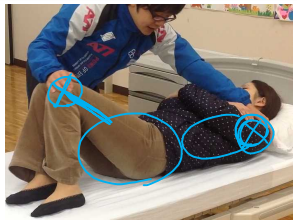
④膝を立てていただく
重心をまとめる

⑤こちら側を向いていただく
変換時に頭が揺れるのを避けるため、
先に向いていただく

⑥膝・肩を支え、声をかける
身体が揺れないように支える



⑦下半身から倒していく
てこの原理を活用するため
※あまり強く力を入れない。怪我することで…。



⑧優しく倒す
身体に反動を少なく
音を立てず倒しましょう
腕が下敷きになっていないか確認

⑨腰を入れる
安定させるため、腰を入れる
しっかりと入れましょう。

⑩安定するよう四肢を動かす
上側の脚を前方向に
下側の足を後ろ方向に
腕を楽にしていただく

⑪体調確認をして終了を告げる
気の利いた一言を添えよう
(例)体はきつ.

くじを引こう

①②	③④
⑤⑥	⑦⑧
⑨⑩	⑪⑫
⑬⑭	⑮⑯

校内実習記録

生活支援技術レポート

No.も

1年 介護福祉コース　　席　　名前　　No. 3

実習日	平成　年　月　日（　）　天気
実技項目	側臥位への体位変換
	手順　　声かけ

本番はボールペン

項目はみんな同じ統一します

提出締め切り
1月23日(金)17時

なぜ側臥位になるのか？

介護する理由も考えながら
声掛けができるとよいですね。

目標を振り返ろう！

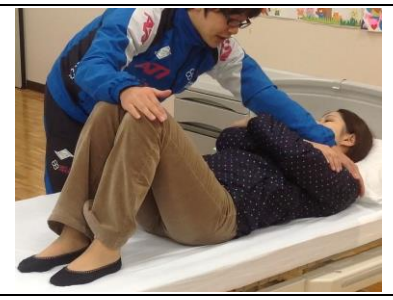
A,しっかり達成できた
B,達成できた
C,大体達成できた
D,あまり達成できていない
E,達成できていない
F,まったく達成できていない

自己評価

側臥位への体位変換の方法を知ろう

プリントの内容は手順をまとめただけです。気づいたところはメモの習慣を！

横を向きたいときもあるよね！

① 挨拶・名乗り・体調確認 呼名はフルネーム 名乗りもフルネーム	② 説明と同意（インフォームドコンセント） 向く方向と逆方向に水平移動 ※身体を中心に持っていくため その後、体位変換（仰→側）	③ 水平移動（向きたい方向とは逆） プリントNo16 参照 終わったら反対側に回り込む	④ 膝を立てていただく 重心をまとめる	⑤ こちら側を向いていただく 変換時に頭が揺れるのを 避けるため、先に向いていただく	⑥ 膝・肩を支え、声をかける 身体が揺れないように支える
					
⑦ 下半身から倒していく てこの原理を活用するため	⑧ 優しく倒す 身体に反動を少なく 音を立てず倒しましょう 腕が下敷きになっていないか確認	⑨ 腰を入れる 安定させるため、腰を入れる しっかりと入れましょう。	⑩ 安定するよう四肢を動かす 上側の脚を前方向に 下側の足を後ろ方向に 腕を楽にしていただく	⑪ 体調確認をして終了を告げる 気の利いた一言を添えよう	

気づいたこと・感想

体位変換（仰臥位→側臥位） 左麻痺 実技試験

担当者　　席　名前

伊賀はなこさん（79歳）は左上下肢に麻痺がありますが、膝を立てることはできます。伊賀はなこさんは昼寝から目が覚め、仰臥位で寝ています。長い時間同じ姿勢で寝ていたため、気分転換に側臥位になっていただきたいと思います。
伊賀はなこさんは「うなずく」または「首を横に振る」のみです。

項目	関心・意欲・態度		評価	思考・判断・表現		評価	技能		評価	知識・理解		評価
はじめに	1	適切な身だしなみで支援ができたか		1	①挨拶→②自己紹介→③本人確認→④利用者の気分確認→⑤排泄の確認					1	利用者の健側から声をかけたか	
	2	介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か			⑥援助動作の事前説明→⑦協力依頼→⑧利用者の同意を得る							
	3	利用者が理解できるスピードで声かけができたか										
	4	利用者の背景因子に配慮した声掛けができたか										
	5	利用者の目線に合わせて声掛けができたか										
	6	利用者が自己決定を促進する声かけができたか										
水平移動				2	ベッドの高さと床頭台についての声掛けがあったか		1	ベッドの高さを調節したか		2	利用者の安全に配慮して水平移動を行ったか	
							2	安全な位置に床頭台を移動したか				
	7	安全に配慮した声掛けができたか		3	利用者に反対側にまわることの説明を同意を得たか		3	利用者を麻痺側に水平移動するために反対側にまわったか				
	8	自立支援に関する声掛けができたか					4	利用者に腕と足を組んでもらったか				
	9	利用者の表情も確認したか		4	利用者の体調を確認したか		5	上肢から下肢を水平移動したか				
側臥位				5	利用者に反対側にまわることの説明を同意を得たか		6	利用者の反対側にまわったか		3	利用者の安全に配慮して側臥位になっていただいたか	
	10	自立支援に関する声掛けができたか					7	利用者に健側の手で患側の手を胸において支えていただいたか				
							8	介護者は健側に立ち、利用者に顔を寝返る側に向いていただいたか				
							9	利用者に膝を立ててもらったか				
							10	利用者の肩と膝に手を置き、膝から先に回転させ、骨盤が回旋してから肩を動かしたか				
	11	利用者の表情も確認したか		6	利用者の体調を確認したか		11	利用者の膝を引くことで腰部の体重が分散するようにやや前傾し、足を前に出して安定させたか				
							12	左右の肩を持ち、体重を分散させるために前傾させか		4	「く」の字型の安定した安楽な側臥位であることを確認したか	
環境整備							13	ベッドの高さを元に戻したか				
							14	床頭台を元に戻したか				
	12	利用者の表情も確認したか		7	利用者の体調を確認したか							
合計												
合　計（　　点満点　）												
評価										A　B　C　D		

担当教員　　席　名前

後期考査　生活支援技術　体位変換（仰臥位→側臥位）　左麻痺　実技試験

伊賀はなこさん（79歳）は左上下肢に麻痺がありますが、膝を立てることはできます。伊賀はなこさんは昼寝から目が覚め、仰臥位で寝ています。長い時間同じ姿勢で寝ていたため、気分転換に側臥位になっていただきたいと思います。　伊賀はなこさんは「うなずく」または「首を横に振る」のみです。

項目		思考・判断・表現／関心・意欲・態度／技能／知識・理解	評価																				
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	X
はじめに	1	適切な身だしなみで支援ができたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1	挨拶→自己紹介→本人確認→利用者の気分確認→排泄の確認→援助動作の事前説明→協力依頼→利用者の同意を得る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
	1	利用者の健側から声をかけたか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2	介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か	△	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	△	×	
	3	利用者が理解できるスピードで声かけができたか	△	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	
	4	利用者の背景因子に配慮した声掛けができたか	△	○	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×	○	△	○	
	5	利用者の目線に合わせて声掛けができたか	△	○	△	○	×	○	○	○	○	×	○	○	△	○	△	○	△	○	△	○	
	2	ベッドの高さと床頭台についての声掛けがあったか	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	
	1	ベッドの高さを調節したか	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	△	×	
	2	安全な位置に床頭台を移動したか	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
水平移動	3	利用者に反対側にまわることの説明を同意を得たか	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	
	3	利用者を麻痺側に水平移動するために反対側にまわったか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4	利用者に腕と足を組んでもらったか		○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
	5	上肢から下肢を水平移動したか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2	利用者の安全に配慮して水平移動を行ったか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4	利用者の体調を確認したか		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	○	
	6	利用者の自己決定を促進する声かけができたか		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
	7	安全に配慮した声掛けができたか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	
	8	自立支援に関する声掛けができたか		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	9	利用者の表情も確認したか		○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	△	○	
側臥位	5	利用者に反対側にまわることの説明を同意を得たか		×	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	
	6	利用者の反対側にまわったか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	7	利用者に健側の手で患側の手を胸において支えていただいたか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	8	介護者は健側に立ち、利用者に顔を寝返る側に向いていただいたか		○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
	9	利用者に膝を立ててもらったか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	
	10	利用者の肩と膝に手を置き、膝から先に回転させ、骨盤が回旋してから肩を動かしたか		○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	
	3	利用者の安全に配慮して側臥位になっていただいたか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△	○	○	○	○	○	○	
	11	利用者の腰を引くことで腰部の体重が分散するようにやや前傾し、足を前に出して安定させたか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
	12	左右の肩を持ち、体重を分散させるために前傾させか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
	4	「く」の字型の安定した安楽な側臥位であることを確認したか		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	△	○	×	○	○	○	
	6	利用者の体調を確認したか		○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	10	自立支援に関する声掛けができたか		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	
	11	利用者の表情も確認したか		○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	△	○	
環境整備	13	ベッドの高さを元に戻したか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△	○	○	○	
	14	床頭台を元に戻したか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	7	利用者の体調を確認したか		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	12	利用者の表情も確認したか		○	○	○	△	○	○	○	○	×	○	×	×	×	△	○	○	○	○	×	
合　計			15	70	69	74	64	70	68	70	70	48	70	60	65	64	62	64	65	74	67	58	0
評価			C	A	A	A	B	A	A	A	A	C	A	B	B	B	B	A	B	A	A	B	

90%	60%	0%
100%	90%	60%

A	B	C
11	7	2

「ICT を活用した生活支援技術」

三重県立伊賀白鳳高等学校
ヒューマンサービス科

「生活支援技術」における介護技術の授業は、なかなか生徒自身が自分の介護技術を客観的に振り返りにくい傾向にある。筆記ではないため、なにを間違えたのか、自身の介護技術のどこに課題があるのかが、見えなかったりできていると思い込んでいたりなど、ケースはさまざまである。そこで、本校では ICT を活用した生活支援技術を実践している。

本校ヒューマンサービス科の ICT 機器は、充実している方であり、これらを生活支援技術の授業で活用した。今回振り返りの授業で特に活用したものは、「電子黒板機能付きプロジェクター」「iPad」「apple TV」「ウェアラブルカメラ」である。

※これらについては、大阪市立淀商業高等学校の取組を、ヒントに実践したものである。

○ICT の活用方法について

・電子黒板

ホワイトボードに映し出すプロジェクター型の電子黒板を採用している。これについては、PC 操作を、ホワイトボード上でできるというメリットがある。

・iPad

今回は、撮影機器として活用した。介護実践を撮影し再生する一連の操作が手軽というメリットがある。また、ウェアラブルカメラには、本体での操作系統や保存機能が劣っている点がある。今回採用したメーカーも iPad から遠隔操作できるアプリケーションもでており、iPad で操作をした。

・Apple TV

電子黒板への映し出すリンクとして活用。すべてのデータが、iPad にあるため、Apple TV を経由し映し出した。

この授業を振り返り、生活支援技術で活用するメリットとして、①実際に行った実技をすぐに、全体で確認することができた。　②映像を止めたり、戻したりして、動作を確認することができた。③iPad を各班に渡すことで、生徒自身で操作をし、課題や成果を見つけることができた。④iPad だけでなく、ウェアラブルカメラを使用することで、全体だけでなく、介護者の目線で介護を考えることができたなどが挙げられる。一方、課題としては、①iPad の音声が小さく、声掛けが聞き取りづらかった。②ウェアラブルカメラは顔の動きに連動するが、目の動きには連動しないので、細かな目線の動きまでは分からない。③機器の連携が、途切れることがあるなどがあげられた。
音声については、今後マイクなどを活用することで、解決を図りたい。②の目線の動きについて、カメラを頭に設置しているだけであり、目で見ている映像＝カメラで撮影した映像にはならないのは、たしかである。しかしながら、これは姿勢ができていないということでもあるので、生徒の介護実習における姿勢の課題としても置き換えられる。③については、難しい課題でいつまでもつきまとうリスクである。

授業については、客観的に自分たちの介護を見ることができるので、良い点、改善点を意欲的に発言できる生徒がいた一方で、介護の映像を見る際に、どのポイントを見ればよいのかわからない生徒もいた。介護のポイントをあらかじめ確認しておく必要性があった。ICT を活用するうえで、機器の動作確認が必要であり、機器の連携、録画した音声の大きさや、動画の画質などを設定の確認、特に iPad の音声は小さいので、マイクの使用を検討すべきであった。また、ICT を前面に出した授業ではなく、授業の中に効果的に ICT を活用することが望ましい。動画のどの部分を教材として使用するのか、気づかせたいポイントはどこか、狙いをもって授業を行っていきたい。また、評価の観点に沿った評価ができるように、ワークシートの内容の検討などを行っていく必要性を感じた。
また、授業見学者からの意見として、以下のようなものが挙がった。

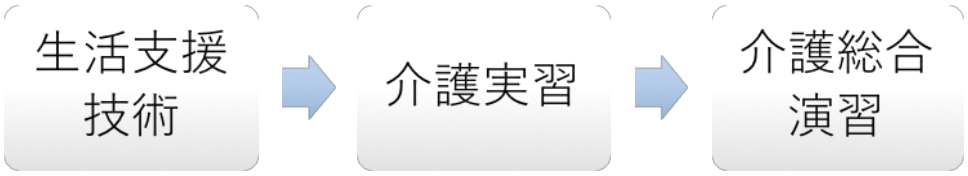
＜公開授業での意見＞
◎よかった点
・目標の確認、授業の流れを生徒が意識できた。
・生徒の取り組み状況がよかった。

・動画の利用方法がよい。（客観的に見ることができる。リプレイができる。）
・動画を見ることで、良い点や改善点を話し合うことができる。

◎課題点・改善点
・介護の手順は統一していないのか。
・iPad で実技のチェックをするだけでは、押し付けの介護、○しかない介護になってしまうのではないか。介護をする人、利用者が変われば、介護も変わってくるので、その人にとってベストな介護とは何かを考えるために動画を活用してはどうか。
・利用者の目線に合わせているか分かりづらかった。
・利用者の感想があればもっといいと思う。
・動画をどのような視点で見ればよいか分かりづらかった。各項目を設定してから見てもよかったのではないか。
・コミュニケーション力が大切である。
・課題を検討する際は、まず個人で考えさせ、次にペアで考え、全体へとつなげていった方がたくさんの意見が出るのではないか。
・「一人いくつ見つけよう」と数を提示して考えさせてもよいのではないか。
・生徒が介護のポイントなどを確認する際に、調べる時間を確保する、全員が調べるような声掛けが必要ではないか。

○連携への課題
生活支援技術の学習の実践の場として、介護実習があり、その事後指導については、介護総合演習で実施する流れである。しかし、介護総合演習では、時間数も限られ、なかなか介護技術の課題を振り返ることができない。そこで、本校では、授業の１割程度を介護実習の振り返りにあてる時間を取っている。この授業については、今後実習の課題などをとりあげ、課題となった介護技術の振り返りに利用できるのではないかと考えている。

現在



今後

「生活支援技術」学習指導案

授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校　教諭　曽根﨑 藍
指導年月日：平成 28 年 9 月 21 日水曜日 3、4 限（11：00～12：50）
対象学級：2 年 7 組　ヒューマンサービス科　介護福祉コース 12 名（女子 9 名，男子 3 名）

Ⅰ．単元名
移動の介護

Ⅱ．単元の目標
移動の意義や目的について理解させるとともに、日常生活を自立的に送るために必要な移動・移乗の介護、活動意欲を高める介護や安全で安楽な移動の介護などを取り上げ、サービス利用者の状態や状況に応じた体位変換、歩行、車椅子など、自立に向けた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得させる。

Ⅲ．生徒の様子
介護福祉コースの 12 名は介護福祉士国家資格の取得を目指している。生徒人数が 12 名と少ないが、丁寧な説明や声かけが必要な生徒が多い。また、コース全体で課題などに対して途中で諦めたりする雰囲気がある。しかし、今年の 7 月に初めての介護実習を経験し、実際に施設利用者と接することで介護に対する意識が高まった生徒も多く、7 日間の実習をやり遂げたことが生徒たちの自信に繋がったと感じることができた。

Ⅳ．単元の評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日常生活を自立的に送るために必要な移動・移乗の介護、活動意欲を高める介護や安全で安楽な移動の介護の方法について探求しようとしている。	サービス利用者の潜在能力を引き出し、安全で安楽な介護を考え、実践している。	体位変換、歩行、車椅子など、自立に向けた移動の介護に関する基礎的な技術を習得している。	日常生活を自立的に送るために必要な移動の意義や目的について理解している。体位変換、歩行、車椅子など、自立に向けた移動の介護に関する基礎的な知識を身に付けている。

Ⅴ．指導計画
移動の意義と目的
移動・移乗の介護の基本的理解
体位変換
車椅子の介助・・・・・・・・・・・・・本時
歩行介助
移動に用いられる福祉用具

Ⅵ. 本時の指導計画

１．主題名

自立に向けた安全で安楽な車椅子からベッドへの移乗介護

２．目標

①前時に行った移乗介助を振り返り、良い点、改善すべき点に気づく。

②気づいた点を基に班で話し合い、自立に向けた安全で安楽な移乗介護を実践することができる。

３．評価の観点

移乗介助を振り返り、良い点、改善すべき点に気づくことが出来た。【思考・判断・表現】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
前時に録画した移乗介助の動画に対して良い点、改善点気を発言することができたら「B」	気づいた点を発言することができない。 [手立て]気づきに繋がる発問を行う。
「B」に加え，介助の根拠について説明を加えて発言することができれば「A」	

移乗介助の課題に対して、取り組むことが出来た。【関心・意欲・態度】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
班員とともに課題の検討に取り組むことが出来たら「B」	課題検討への参加が消極的である。 [手立て]声をかけ参加を促す。
「B」に加え，班の意見をまとめ，リーダーシップをとることができれば「A」	

自立に向けた安全で安楽な移乗介護の技術について気づくことが出来た。【技能】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
自立に向けた安全で安楽な車椅子からベッドへの移乗介護とは何かに気づくことが出来たら「B」	移乗介護のポイントが理解できていない。 自立に向けた安全で安楽な介護の視点がない。 [手立て]移乗介護のポイントを説明し、気づきに繋がる発問を行う。
「A」なし	

4．本時の展開計画

3 時間目（11：00～11：50）

展開	時間	学習内容	指導内容
導入	10 分	●持ち物、身だしなみの確認	●授業に必要なものが準備できているか、服装、身だしなみが整っているか確認する。
		●本時の目標の確認	●生徒が確認することができるように板書する。 ①前回行った移乗介助を振り返り、良い点、改善点を見つける ②自立に向けた安全で安楽な移乗介護とは何か考える
		●本時の流れの確認	●生徒が確認することができるように板書する。 ①前回の移乗介助を全体で振り返る ②各班で振り返る（プリント記入） ③移乗介護の練習 ④発表 ⑤片付け ⑥プリント記入
展開	40 分	●課題検討（20 分）	●前時に録画した移乗介助の動画をプロジェクターで映し、良い点、改善点を検討する。（2 つの班の全体を映したものと、ウェアラブルカメラで撮影した介護者目線のもの） ○1 班ずつの動画を再生する。iPad を操作し、映像を繰り返し再生し、介助の良い点、改善点について生徒の気づきを発表させる。 ○意見が出ない場合は、映像を止め、発問するなどして生徒の気づきを促す。 ○出てきた意見は、良い点と改善点で分け板書する。
		●介護のポイントをまとめる（10 分）	●課題のポイント、介護のポイントをまとめ板書する。 ・車椅子の点検 ・ボディメカニクスの活用 ・車椅子とベッドとの距離をできるだけ近くする ・麻痺側の保護 ・安全・安楽の視点 ・自立支援の視点 ○介護のポイントをプリントに記入するように指示する。 ○必要であれば介護のデモンストレーションを行う。
		●各班での課題検討（10 分）	●前時に録画した移乗介助の動画を各班で確認し、良い点、改善点を検討する。移乗介護のポイント、検討した点を基に自立に向けた安全で安楽な介護を行う。 ○各グループに iPad を渡し、それぞれで自分たちの介護を確認しながら気づいた点をプリントに記入するよう説明する。 ○各グループを巡回し、気づきを促す声かけを行う。

4時間目（12：00～12：50）

展開	時間	学習内容	指導内容
導入	10分	●本時の流れを確認 ●ベッドメイキング、実技の準備	●班で別れて活動することを説明する。 ●必要物品を揃え（シーツ、車椅子、介助バー）準備するように指示する。
展開	35分	●実技の練習（15分）	●移乗介助のポイント、班で検討した点を基に自立に向けた安全で安楽な介護を実践する。 〇班で検討した点を確認、改善しながら車椅子からベッドへの移乗介護を練習するように指示する。 〇ベッドを巡回し、適時声をかける。
		●実技の発表（15分）	●班で改善した車椅子からベッドへの移乗介護を発表する。 〇くじを引き、発表する班を決める。 〇発表する班の動画を再生し、班の１人が改善する点を発表するよう説明する。 〇班の残り２人が車椅子からベッドへの移乗介護を発表するように指示する。 〇自立に向けた安全で安楽な視点から助言する。
		●片付け（5分）	●使用した物品を片付ける。 〇時間以内に片付けをする指示をする。
まとめ	5分	●本時の目標を振り返る	●本時の感想を書く。 〇本時の目標を確認し、気づいたこと、感想をプリントに書くよう指示する。

生活支援技術

2年　　席　　名前

第4章　移動の介護
3　車椅子の介助

＜課題＞
左半身に麻痺のある利用者さんがいます。車椅子からベッドへの移乗介助を行ってください。

★動画を見て気づいたことをまとめよう

1組目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜良い点＞

＜気になる点・改善点＞

2組目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜良い点＞

＜気になる点・改善点＞

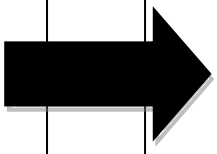
★移乗介護のポイント

★自分たちの班の動画を見ながら介護を振り返り、気づいた点をまとめよう

＜良い点＞

＜気になる点・改善点＞

＜改善のための方法・工夫＞



★本日の気づき・感想

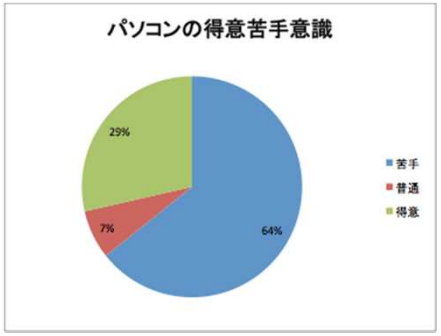
ICT 活用　3年目

三重県立伊賀白鳳高等学校
ヒューマンサービス科

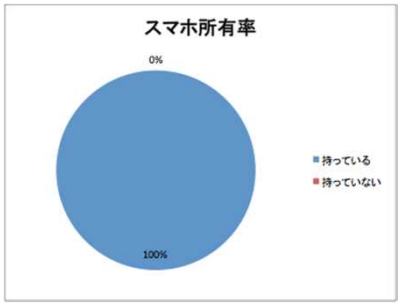
H27年度まで

- 機器の選定
- 導入
- 実践

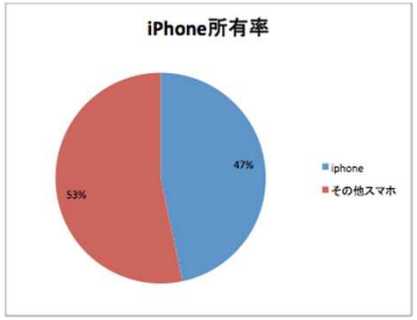
タブレットのパソコンかiPadか



パソコンは苦手だけどスマホは使いこなせる



iPhoneユーザーが半数近くいる
⇩
iPad使える



iPad の課題

- 購入の難しさ
  - → クレジットであったり、iTunensカード
- データ
  - → Windowsとの互換性
  - → ケーブル問題

iPad　アプリケーション

その他

六訂　社会福祉用語辞典

六訂 社会福祉用語辞典

2012年4月リリース

Google play

App Store

約2900の社会福祉に関する用語を解説。豊富な検索オプションに加え、履歴・しおり・マーカー・辞書間連携などアプリならではの機能を実装しています。

六訂　介護福祉用語辞典

六訂 介護福祉用語辞典

2012年4月リリース

Google play

App Store

介護福祉をめぐる基本から最新の用語まで約3500語を収載。六訂版では、介護の基本技術のほか、コミュニケーションや介護過程などの専門用語、老化や障害、認知症、こころとからだのしくみに関する用語を収載。介護福祉士の新義成カリキュラムに対応した項目を追加。

iPad　アプリケーション

Windows

1PC
1ソフト

iPad

1ユーザー
1ソフト

iPad
複数台の機器に
ソフトを導入しやすい

iPad　アプリケーション

介護福祉士

介護福祉士合格アプリ2017
過去問題＋模擬問題＋一問一答

2017 介護福祉士合格アプリ

2016年7月リリース

詳細を見る

Google play

App Store

毎年大好評の介護福祉士受験対策アプリの2017年1月国家試験対応版！ 3年分の国試を詳細に解説した「過去問題」、試験の傾向を徹底分析した「模擬問題」、国試過去問を含む「一問一答」で試験対策は万全！

生活支援技術で今年度取り入れ

第2回介護技術コンテスト　本日の課題

課　　題	状　況	仲尾しのぶさん（80歳・女性）は、1年前に脳梗塞のため右上下肢麻痺となりました。介助があれば立位はとれますが、歩行はできません。更衣、移乗は一部介助が必要です。耳は聞こえづらいですが、相手の言うことは理解できます。 今まで、フロアにて、車いすに乗りお手玉をしていました。少し疲れており、いつもの日課になっている昼寝の時間です。仲尾しのぶさんを居室に連れて行き、上着を脱がせ、仰臥位で休ませてください。
	健康状態・ 心身機能・ 身体構造	1年前に脳梗塞のため右上下肢麻痺、老人性難聴(補聴器の利用なし)
	活動	移動は車いすで、立位は可能だが不安定。更衣、移乗は一部介助で可能ですが、移動には介助が必要。食事は自立。排泄は一部介助が必要。夜間のみポータブルトイレ使用。 コミュニケーションは、はいかいいえのみ。 利き手は右。
	個人因子	女性。80歳。体を動かすことは好きだった。趣味は俳句を読むこと。 以前は夫とともに、かたやき屋を営んでいた。
	環境因子	1年前介護老人福祉施設入所。夫は週に1回面会に来る。 現在は夫は一人でかたやき屋をきりもりしている。
使用できる物品	ベッド　マット　介助バー　車いす　タオルケット タオル類（ハンドタオル、フェイスタオル、バスタオル）　服（上下）2セット　寝衣 カーディガン2種類 ※その他使用できる物品がある可能性があります。	

※車いすのサイドガードは動きません。フットサポートははずれません。そのまま使用してください。

第2回　三重県介護技術コンテスト審査用紙

番	【学校名】	【名前】	審査員

不十分　0点　／　できた・終了点　2点　／　十分できた　3点

項目	主体的に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現
初めの挨拶	A　初めの挨拶		□終了点
	1 介護者の身だしなみは整えられていたか □不十分 □できた □十分できた 2 介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か □不十分 □できた □十分できた 3 利用者が理解できるスピードで声かけができたか □不十分 □できた □十分できた 4 利用者の個人因子や環境因子に配慮した声かけができたか □不十分 □できた □十分できた 5 利用者の自己決定を促進する声かけはできたか □不十分 □できた □十分できた		1 視線を合わせて挨拶（自己紹介）をしたか □不十分 □できた □十分できた 2 名前の呼び方は適切か □不十分 □できた □十分できた 3 介護内容を的確に説明したか □不十分 □できた □十分できた 4 利用者から同意を得たか □不十分 □できた □十分できた 5 気分・体調の確認をしたか □不十分 □できた □十分できた 6 座位の安定・安全を確認したか □不十分 □できた □十分できた 7 おしぼりで手を拭いたか □不十分 □できた □十分できた 8 お手玉を片付けたか □不十分 □できた □十分できた
	備考		点
車いす移動	B　車いす移動	1 ブレーキを外す行為を、利用者自らできるよう声かけができたか □不十分 □できた □十分できた 2 車いすの発進時、方向転換、到着時にそれぞれ適切な声かけができたか □不十分 □できた □十分できた 3 適切なスピードで車いすを押すことができたか □不十分 □できた □十分できた 4 ブレーキをかける行為を、利用者自らできるよう声かけができたか □不十分 □できた □十分できた	□終了点
	6 介護者はボディメカニクス（支持基底面，足先方向等）を活用したか □不十分 □できた □十分できた 7 介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か □不十分 □できた □十分できた 8 利用者が理解できるスピードで声かけができたか □不十分 □できた □十分できた 9 利用者の個人因子や環境因子に配慮した声かけができたか □不十分 □できた □十分できた 10 利用者の自己決定を促進する声かけはできたか □不十分 □できた □十分できた		9 気分・体調の確認をしたか □不十分 □できた □十分できた 10 安全を配慮し行ったか □不十分 □できた □十分できた
	備考		点

不十分　0点　／　できた・終了点　2点　／　十分できた　3点

項目	主体的に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現
車いすからベッドの移乗	C　車いすからベッドへの移乗		□終了点
		5 車いすからベッドへ移乗することを説明したか □不十分　□できた　□十分できた	
		6 車いすからベッドへ移乗することの同意を得たか □不十分　□できた　□十分できた	
		7 車いすを、健側が活用できる適切な位置に配置できたか □不十分　□できた　□十分できた	
		8 ブレーキをかけたか □不十分　□できた　□十分できた	
		9 フットレストから安全に足を下したか □不十分　□できた　□十分できた	
		10 車いすへスムーズに移動しやすいように、浅座りできたか □不十分　□できた　□十分できた	
		11 膝折れ防止をしたか □不十分　□できた　□十分できた	
		12 前傾姿勢の体勢になるよう声かけできたか □不十分　□できた　□十分できた	
		13 移乗後の座位姿勢が安定しているか確認できたか □不十分　□できた　□十分できた	
	11 介護者はボディメカニクス（支持基底面，足先方向等）を活用したか □不十分　□できた　□十分できた		
	12 介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か □不十分　□できた　□十分できた		
	13 利用者が理解できるスピードで声かけができたか □不十分　□できた　□十分できた		
	14 利用者の個人因子や環境因子に配慮した声かけができたか □不十分　□できた　□十分できた		
	15 利用者の自己決定を促進する声かけはできたか □不十分　□できた　□十分できた		
			11 気分・体調の確認をしたか □不十分　□できた　□十分できた
			12 安全を配慮し行なったか □不十分　□できた　□十分できた
	備考		点

不十分　0点　／　できた・終了点　2点　／　十分できた　3点

上着の更衣

D　上着の更衣　　□終了点

13	気分・体調の確認をしたか □不十分　□できた　□十分できた
14	安全に配慮し行なったか □不十分　□できた　□十分できた
15	上着を片づけたか □不十分　□できた　□十分できた

14	上着を脱ぐことを説明したか □不十分　□できた　□十分できた
15	上着を脱ぐことの同意を得たか □不十分　□できた　□十分できた
16	自ら脱ぐ声かけをしたか □不十分　□できた　□十分できた
17	麻痺側に立ち介助したか □不十分　□できた　□十分できた
18	健側から脱がせたか □不十分　□できた　□十分できた

16	介護者はボディメカニクス（支持基底面，足先方向等）を活用したか □不十分　□できた　□十分できた
17	介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か □不十分　□できた　□十分できた
18	利用者が理解できるスピードで声かけができたか □不十分　□できた　□十分できた
19	利用者の個人因子や環境因子に配慮した声かけができたか □不十分　□できた　□十分できた
20	利用者の自己決定を促進する声かけはできたか □不十分　□できた　□十分できた

備考

点

不十分　0点　／　できた・終了点　2点　／　十分できた　3点

項目	主体的に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現
仰臥位の介護	**E　仰臥位の介護**　　□終了点		
		17 仰臥位になることを説明したか　□不十分　□できた　□十分できた	
		18 仰臥位になることを同意したか　□不十分　□できた　□十分できた	
	21 介護者はボディメカニクス（支持基底面，足先方向等）を活用したか　□不十分　□できた　□十分できた		
	22 介護者の声の明るさ・優しさ・大きさは適切か　□不十分　□できた　□十分できた		16 安全に靴を脱ぐことができたか　□不十分　□できた　□十分できた
	23 利用者が理解できるスピードで声かけができたか　□不十分　□できた　□十分できた		17 麻痺側の手の位置に配慮をしたか　□不十分　□できた　□十分できた
	24 利用者の個人因子や環境因子に配慮した声かけができたか　□不十分　□できた　□十分できた	19 健側の手を支えにして寝ることができたか　□不十分　□できた　□十分できた	18 健側の手の位置を確認したか　□不十分　□できた　□十分できた
	25 利用者の自己決定を促進する声かけはできたか　□不十分　□できた　□十分できた	20 両足をベッドの上にあげるサポートをしたか　□不十分　□できた　□十分できた	19 頭側の配慮をしたか　□不十分　□できた　□十分できた
		21 ベッドの中心に寝ることができたか　□不十分　□できた　□十分できた	20 気分・体調の確認をしたか　□不十分　□できた　□十分できた
			21 安全を配慮し行なったか　□不十分　□できた　□十分できた
	備考　　点		
チームワーク	**F　チームワーク等**		
	26 役割分担は適切か　□不十分　□できた　□十分できた		
	27 介護者同士の意思の疎通は図られていたか　□不十分　□できた　□十分できた		
	28 手際よく時間内に介護内容を終えたか　□不十分　□できた　□十分できた		
全体を通して	**G　全体を通して**		
	29 個人を尊重できたか　□不十分　□できた　□十分できた		
	30 自立へ向けた支援ができたか　□不十分　□できた　□十分できた		
	31 安全や安楽への配慮ができたか　□不十分　□できた　□十分できた		
備考	点		

アピール						
	32	実施した介護とアピールの内容が一致しているか	2	4	6	8
	33	エビデンスに基づいて介護内容を説明できたか	2	4	6	8
	34	介護の創意工夫点を説明できたか	2	4	6	8